

令和4年度第1回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和4年9月20日（火）14:00～17:25

開催場所：土木学会C会議室＋ZOOM会議

出席者：佐々木委員長，森副委員長，北野幹事長，

川崎，内山，荒木，遠藤，下園，安田，越村（各小委員長），加藤，有川，瀬戸口，高川，西畑，山城，李，渡辺，西畑，渡部，田島，桐，坪野（委員），嶋原（2022年度海岸工学講演会実行委員），原田（2023年度海岸工学講演会実行委員）

議事録：坪野，北野

資料：

- ・ 令和4年度第1回海岸工学幹事会議事次第（資料1）
- ・ 事前回覧資料（研究小委員会・研究会・WGと論文集ありかたアンケート）（資料2）

■前回議事録の確認（WEB公開済）

- ・ 前回幹事会の議事録を確認した。

■Coastal Engineering Journal について（内山）

- ・ Editorial BoardとCEJ小委員会のメンバーは6月以降変化なし。
- ・ インパクトファクターが2.032（2019），3.216（2020）から3.289（2021）になった。
- ・ CEJ2022 Mar., Vol. 64, Issue 1: Coastal Hazards and Risks due to Tropical Cyclones (Guest Editors: Yoshimitsu Tajima and Andrew B. Kennedy) 発刊（12編）。
- ・ CEJ2022 Jun., Vol. 64, Issue 2: :10編（3編テクニカルノート，そのうち1編がDiscussion Paper）を発刊。
- ・ CEJ2022 Sep., Vol. 64, Issue 3（暫定）：6編で発刊予定。
- ・ 2023年CEJ Special Issue として，Coastal Disasters in Asia: Forecasting, Uncovering, Recovering, and Mitigation (Guest Editors: Hiroshi Takagi and Mohammad Heidarzadeh) を査読中（投稿数18編，受理6，審査中5=>11編）。
- ・ 2024年CEJ Special Issue として，Progress of Ocean Wave Measurements (Guest Editors: Hitoshi Tamura and Clarence O. Collins) を企画されており，論文受付中。エントリー募集中。
- ・ 2022年108編投稿（9/9），9/15までに95編の投稿ありなので，過去最大となる。
- ・ 国別投稿数について，さまざまな国からの投稿が増加，日本からの投稿も期待。
- ・ Coastal Engineering Journal Award 2021&JAMSTEC中西賞，CEJ Citation Award 2021，CEJ Review Award 2021の授賞者（6月の委員会で承認済，CEJ公式HPで発表済み）の報告があり，林さんと北野幹事長で，盾と賞状の準備と発送を進めている。

■第69回海岸工学講演会について（嶋原、荒木）

実行委員会：栗山（海上・港湾・航空技術研究所，実行委員長），鈴木・比嘉（横浜国大），八木・嶋原・山本（防衛大），田島・下園（東大），福谷（関東学院大），有川

(中央大), 高川(港空研), 今井(JAMSTEC)

後援: 横須賀市, 国土交通省関東地方整備局

日程: 2022年 11月8(火), 9(水), 10(木), 11(金)

※1日目: オンライン(11/8), 2日目以降: ハイブリッド(11/9-11)

会場: 横須賀市 ヴェルクよこすか(横須賀市立勤労福祉会館)

・ 第1から第4会場(3, 4会場をオンライン)使用. 受付は一階入り口近傍(検温・消毒設置)に変更.

・ 小委員会は, 第4, 5会場で実施.

・ オンライン・ハイブリッド方針: 広報・出版・web開催小委員会は8日のオンライン開催を担当. 実行委員会は2日目以降のハイブリッド開催を担当.

・ 運営は業者(2名)依頼.

・ ハイブリッドの実施: 司会, 発表者にPC用意, カメラ3台用意.

・ 発表総数226件, オンラインのみ: 28件, ハイブリット: 198件.

・ 費用見積(約2,862千円): ハイブリッド機材費(約1,648千円), 会場費(約412千円), アルバイト(528千円), お弁当代(約273千円)

・ 見学会: 日時11/8 14:00 - 16:10, 場所 港湾航空技術研究所, 現地集合. 土木学会のHPより参加申し込みを実施中.

・ 懇親会は開催されない.

・ 開催の判断基準は, 9月初めに3役+実行委員会で判断済み. 仮に横須賀市のまん防か緊急事態宣言が出た場合は, オンラインとなる.

以下は, 質疑の内容.

- 司会者は, オンサイトでしていただくことが原則と考えているが, オンラインでも可能ということでしょうか? => 可能です. ただし, オンラインでは顔が表示できないので, 名前のみを表示するのみとなります. できればオンサイトをお願いしたい. 今後顔を見せたほうがよいという意見ができれば, 今後の課題として検討していただく予定です.

- アルバイト等の担当を何人用意する予定ですか? => 各部屋に2人配置を考えており, 大会場は3人を考えている. 予備室は一人担当する予定です.

- 企画セッションに参加の学生で, 見学会にオンライン参加は? => 4名の学生が港湾航空研見学に参加する予定で, 企画セッションに接続できる環境も準備しています.

■第69回海岸工学講演会論文審査と発刊準備状況など(川崎, 北野)

・ 下記の通り第69巻の報告があった

第1段審査 登録論文数: 248編, 通過論文数: 226編

第2段審査 通過論文数: 188編(不採択: 0編, 辞退0編)

第2段審査以降 通過論文数: 185編(不採択: 2編, 辞退: 1編)

※海岸工学講演会での発表数: 226編(本論文あり: 185編, 要旨のみ: 41編)

- ・ JSTAGE作業について

組版を廃止，著者から最終PDFを組版に提出して業者がフォーマットチェックしたところ，修正が必要な現行がExtended Abstract 26，本原稿6編あること，J-Stage公開は11月初旬の見込みであることが報告された。

- ・ 論文集編集における現状・検討課題

Extended Abstractの提出時期を本論文最終原稿提出時期にあわせる方向で検討すること，題目・著者変更ルール（不可であるが主査が提案した場合は可）の確認・周知を徹底すること，システムと論文記載名のチェックを周知徹底すること，Gmailへ届かない

（Gmail側で棄却されるメールがある）ことがあるので周知などの対応が必要と考えていること，および2023年度から新土木学会論文集へ統合されることが報告された。

- ・ 最終判定の明確化

判定の基準およびその対応について周知・統一することを報告された。

- ・ 著者負担金と論文集 DVD 価格

今年度はハイブリッドの費用が必要となり，負担金が 35,000 円で支出・収入が，ほぼプラス・マイナス・ゼロの状況となっている。なにか不慮の支出があると赤字のため，負担金を 37,000 から 38,000 円に値上することを考えている。講演のみの場合の負担金も若干値上げを考えている。⇒ 負担金の値上げの金額は，執行部に一任することが確認された。以下は，質疑の内容。

- オンラインとオンサイトの参加の人数はどのように把握されていますでしょうか？

⇒ 学会の参加申し込みを用いて把握しますので，参加の場合は参加登録をお願いするとともに，登録について周りへの声かけをお願いします。

- 会場の署名できるスペースはある？⇒ 鹿児島からなくなっており，今回も設けない予定。

- 当日参加の場合は，参加登録可能ですか？ ⇒ 全く登録できないというわけではありません。オンサイト参加のみならず，司会者も参加登録が必要であることを周知するとともに，皆様の事前登録を是非とも，お願いしたい。

- ・ 海岸工学論文賞および奨励賞の選考と賞授賞者

選考方法およびプロセス等について説明があり，受賞者が報告された。この結果について委員会に報告し，メール会議を実施する予定であることが報告された。

■第70回海岸工学講演会+APCA2023について（原田）

実行委員会：後藤委員長（京大），森・志村・宮下（京大防），原田・五十里・清水（京大），荒木・佐々木（阪大），遠藤・中條（大阪公立大）

後援：京都府・京都市（未定），国土交通省近畿地方整備局（未定）

日程：2022年 11月14（火），15（水），16（木），17（金）

*講演会+APAC2023 同時Hybrid開催，懇親会見学会なし。

会場：京都テルサ（京都市南区）

以下の説明，報告があった．

- ・ 仮予約済み
- ・ 予算 4,330千円程度 (2,680 : 会場・バイト等+ 1,650千円予定 : ハイブリット機材費)を計画している．
- ・ APAC2023について，WEBページ (9/2より) が開かれていること，発表形態，投稿・査読関連について説明があった．
- ・ APAC予算は約4,900千円の予定．

質疑は以下のとおり．

- 海講とAPACに提出する場合は，内容を変更する必要がありますか？ => いずれかが口頭発表だけであれば，可能です．
- どちらかをプロシーディングでどちらかをアブストラクトにするのは可能ですか？金額については？ => 可能です．それぞれの著者負担金や参加費を支払うことになる．また，論文集の二次利用について，後の議題で川崎先生が説明されますが，現在土木学会論文集が二次利用にできるかを確かめてもらっています．時間的に並行する点で厳しいため，論文とプロシーディングを提出することは，難しいのではないかとと思われる．
- タイトルは変えないでよいでしょうか？
=> APACプロシーディング+海岸工学口頭発表の場合は問題ない．
- 何人くらいを動員したほうがよいでしょうか？
=> APAC参加が250名の場合 (仮定があるが) を考えています．
- 海岸工学の3日間4会場借りると，支出が4,3000千円なので，今年の参加人数であれば，収支が全く足りないと思定されています (したがって，何らかの検討が必要) ．
- プロシーディングの海外分は期待できますか？ => 期待している．
- APACのアブストラクトは公開する予定ですか？
=> Extended Abstractは参加登録の人のみオンライン公開される予定です．
- APACの二次利用で海溝論文に掲載を考えると可能だと思いますが，スケジュールで難しいかもしれない． => 土木学会では，翻訳が認められているが，その仕組みを使えませんか？ 逆向きが難しいでしょうか？ => Springerの論文を土木学会論文集に掲載することは可能ですが，1年遅らせると可能性がある． => APACはオリジナルのみを認めている．
=> 論文抜きの海溝発表の値段を上げるのも手ではないかと思う．
- いつまでにこの問題はクリアすればよいでしょうか？
=> 予算に関しては，会場を決定する必要があるので，1年前に決めなくてはならない．委員会まで待つのも厳しい状況です．さらに，口頭発表数を確保する必要があります．今年の11月初旬に会場をおさえる必要があります．
- APACのプロシーディングの必要数は？ => 200編必要．日本人100，海外100編を想定．
- 二次利用の土木学会の翻訳論文の場合の査読はどのようになりますか？

=> まだ考えられていないです.

- 海岸工学はオンサイトのみというのはありますか?

=> APAC2023との関係で、ハイブリッドに決定していました.

・会場の決定について

テルサの会場数等の決定は3役+実行委員会に一任することを了承していただきたいとした説明があった。=> 異論がなかった.

■第57回水工学に関する夏期研修会（Bコース）開催報告（下園）

日程：2022年9月5, 6日

会場：東京大学本郷キャンパスオンサイト+オンデマンド研修会

受講者申込数：176（対面56, オンデマンド120）名（Aコース102名（対面30）, Bコース74名（対面26名）

担当：Aコース小田僚子先生（千葉工大）, Bコース下園委員（東大）

出版物：講義集（現在販売中）

新しい試み：オンデマンド研修会, 講義資料電子化.

土木学会の申し込みシステムが、タイミング的に変更（事前払いのみ）が入るなどの逆風のなか、最終的に計176名の参加となったことが報告された.

- 金額を払えば今から（将来も）でも見れますか?

=> 今回では、講師に期間限定と了承しています。この資料は貴重でありますので、検討する必要があるかもしれません.

- 講師の承諾を頂ければ、E-learningとして公開可能と考えている.

- 海岸工学委員会のWebに公開して海岸工学の収入となりますか?

=> 土木学会のE-learningとの兼ね合いがありますが、一部は委員会に払われるとともに、人数については委員会評価のカウントとなります.

- 土木学会のシステムとしてあるかどうかを確認して、問題が無いならば、両委員会で検討するのが良いのではないか。=> 試行的にやられたことは聞いたことがあるが、現在、システムが動いていないようだ。=> 林様にシステム、経緯、可能性について確認してもらい、システムが問題なければ、両委員会と講師に確認することとする.

■第58回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（渡辺）

日時：2023年9月

会場：札幌

内容：国際展開について予定.

・対面のみで実施する予定です.

- 聞きたい話だけを聞くために、オンラインの場合が多いです.

- オンデマンドの外注だと楽になりますが、70万円程度かかります.

- 資料の冊子化についてはこれからも実施されるのでしょうか？ => 基本的にそのよう
だと思います。 => 資料の電子化から紙へは難しい。

- 開催場所の魅力もある。

今回は、水工学が担当ゆえ、水工学の担当と検討を進めて、11月の委員会で報告します。

■ 広報・出版・WEB開催小委員会（荒木）

・ 海岸工学に関する本の紹介が3冊公開されています。

・ プログラム・DVD に関して、企業展示と業界案内の件数が減少している。

・ DVDの業界案内の4. を計測・観測機器および“実験装置”と変更した。

・ オンラインに関わるZoomのうち、昨年と同様、ビジネスのライセンスを購入。

・ オンラインの会場係（オンサイトとは別）の有志の募集を行う予定。

- 海岸工学の広告欄にて、APAC2023の論文投稿の促進を行うこととした。

■ 沿岸域研究連携推進小委員会（遠藤）

・ 新体制メンバーの紹介（13名の継続）があった。

・ 海岸工学講演会の開催期間中に委員会の実施予定（意見公開、企画など）。

・ WEBページでの委員名の更新する予定。

■ 研究小委員会、研究会、WGの活動について

イ) 沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会（安田）

・ 東伊豆の視察+意見交換会（報道）および徳島県、高知県および東伊豆町と協議中。

ロ) 沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村）

・ メンバー応募により61名、6WGで発足。Elsevier Book Chapter2024に執筆予定。

ハ) 波動と地盤の複合場における地盤材料の取り扱い方法に関する研究会

ニ) 沿岸域における気候変動適応策に関する研究

ホ) 地域研究活性化WG

ヘ) 波動モデル研究会

- 予め回覧済みのものもありますが、WEBページでの広報もお願いします。

■ その他

イ) 水理公式集例題集小委員会：水理公式集例題集の改訂（山城；北野代理）

・ 水工学委員会水理公式集例題集小委員会において水理公式集例題集の改訂を進めており、10月10日 初稿、2023年4月1日最終原稿提出、担当者よろしく申し上げます。

ロ) 今年度の予算の使い方（北野）

・ 令和4年度予算から京都テルサへ分割払いする提案があった。テルサ側は可能であると説明があり、土木学会と相談の上、執行部に一任することとなった。

■海岸工学論文集の投稿ならびに査読の在り方（北野，川崎）

イ）委員会の後に実施されたアンケート内容の紹介（北野）

ロ）土木学会論文集編集会議での報告（川崎）

・APAC2023と土木学会論文集の二重出版について協議した。その結果，どちらが一次出版とするかを定める必要があること，土論が一次であれば問題ないが，APAC2023が一次の場合では，アブスト査読のみでは二次出版はできないとの報告があった。

・編集・掲載ルールについて，土木学会論文編集委員会の考え方の説明があった。

・2021年までの投稿論文・査読システムの改修，および2022年度の改修予定の説明あり。以下の意見があり，この幹事会の意見まとめとしては，講演の採択と本論文の審査を切り離し，講演については，EMを用いずに別システムでテキスト（文字）だけの要旨から採否を決定，本論文については，EMを用いてしっかりと査読を行う方針とし，11月の委員会に諮ることを決定した。

- 参考文献にからめて6枚では記載難しいのでは。=> 来年度から，参考文献を除いて，6ページ以内とすることに決定した。細かい点は，論文集編集小委員会で検討する。
 - 海岸工学講演会の前に掲載していただけるようお願いしましたが，審議していただいているのでしょうか？ => 委員会には伝えてあり，今後審議されるはずである。
 - 2段階査読から全文査読への移行することについてのメリットとデメリット。
 - 2段階査読をやめた場合にも，要旨のみで発表できることについて考えなくてはいけないことと，再来年度までのEditorial Manager (EM) への移行はほぼ決定事項です。
 - 水工はEMに移行している。一斉操作（シメキリ等）が難しいと報告を受けている。
- => 最終締め切りに間に合わなくても，特集号ではなく別の号で掲載できるのでは？
- 3月にフルペーパーを提出が難しい業種がある。投稿数が減る可能性が高い。
- => アブストラクトがない場合であれば，4月後半が締め切りになる可能性が高い。
- アブストラクト・本論文（既発表，未発表，日本語）をまとめて査読するのが，手っ取り早くて，楽かつ公平なのではないか？ 発表ベースなら，どのような形式（全文，要旨，ジャーナル掲載済み論文）も受けることとしたほうがよいのではないか。
 - EMを利用すると査読者選定が難しい。=> 海岸工学の場合は，幹事長・編集委員会で決める従来どおりがよいだろう。=> 水工においてEMの権限が議論されていて，情報共有が議論されていると思います。=> 水工学ではEMを別契約で使用しているので自由度が高く，その設定や使い方の詳細は，論文集編集小委員会 川崎先生が情報収集する予定。

以上